

2020 年度事業計画

- 第 41 回総会の開催：2020 年 10 月 1 日～10 月 6 日 web 開催
- 第 41 回大会の開催：2020 年 9 月 19 日～9 月 30 日 web 開催 主催：広島大学
〈大会テーマ〉日本の幼児教育の特性と課題を再考する
〈大会実行委員長〉三輪千明
- 学会賞・学術賞の授与：〈学会賞〉宮地敏子氏 〈学術賞〉中島伸子氏
- 理事・評議委員会の開催：〈理事・評議会〉2020 年 9 月 19 日
〈理事会〉メール審議（従来通り、審議の必要性が生じた時に実施）
対面式（3 月最終末、年次大会前日に開催予定）
- 機関誌の発行：「国際幼児教育研究」第 28 号 2020 年 7 月 31 日
- 教育関連学会連絡協議会への加入
- 会報の発行：「国際幼児教育学会会報」第 71 号 2020 年 11 月 1 日，第 72 号 2021 年 4 月 30 日
- 研究会の開催：支部の活動 九州・沖縄・山口支部とちぎ支部

国際幼児教育学会 42 回大会 (Web によるリモート開催)のお知らせ

大会テーマ：世界の幼児教育のニューノーマル

期 日：2021 年 9 月 25 日(土)～10 月 8 日(金)

【基調講演・シンポジウム等】

2021 年 9 月 25 日(土)～9 月 26 日(日)

【口頭発表】

2021 年 9 月 25 日(土)～10 月 8 日(金)

COVID-19 によって、世界中の就学前施設が日常の保育を奪われた。他方、コロナ禍を逆利用して子どもの心を揺さぶるような実践を試みる園も散見される。第 42 回大会では、日本、米国、中国、韓国、タイなどの就学前施設を対象に、従来の幼児教育を問い直し、新たな価値を創造するような実践事例を紹介してもらい、参加者と相互に対話することで、新常态下における幼児教育を展望するための機会を創出する。



2020 年 8 月 9 日、本学会名誉会長の松原達哉先生(享年 90 歳)がご逝去されました。ここに謹んでご報告申し上げます。松原先生のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。安らかなご冥福をお祈り申し上げます。2021 年 4 月発行予定の次号(会報 第 72 号)では、改めて松原先生のご功績を紹介させて頂く予定です。

会員の方からの原稿を募集しています

- 1) 海外の幼児教育の現状の紹介
 - 2) 海外保育現状を伝える原書の紹介(要旨)分析を含めての紹介
- ※ 字数 500 字程度 (Word MS 明朝 10.5)

所属を明記の上、下記アドレスまでご応募ください。
順にご紹介させていただきます。

岡本 礼子：okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

発行人：中坪 史典
企画編集人：岡本 礼子
発行所：国際幼児教育学会 事務局
〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1
神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育科
福井研究室内 Tel: 078-591-2971
E-mail: ifukui@kobe-shinwa.ac.jp

URL: <http://www.iaece.org>

IAECE 2020 News Letter

International Association of
Early Childhood Education

国際幼児教育学会
会報 71 号

<http://www.iaece.org>

P.1 巻頭言 森 貞美

P.2 第 41 回大会を終えて 三輪 千明
第 41 回大会事務局より 伊藤 真

P.3 委員会報告

P.4 学会賞受賞講演(要旨) 山岡 テイ

P.6 学術賞受賞講演(要旨) 天野 美和子

P.8 支部会活動報

P.9 海外情報 門前 愛
海外著書 山中 拓真

P.10 決算報告 総会報告 事業報告 他

P.11 総会報告 事業報告 他

P.12 2020 年度事業計画
予告次回開催について
お知らせ
事務局より

21 世紀における幼児教育のゆくえ 副会長 森 貞美 (聖徳大学)

ニューヨーク市在住のある 5 歳の男の子は、Covid-19 の影響で 3 月以降、自宅での自粛生活が続いています。9 月からキンダーガーデンに入園しましたが、10 月に入って、やっと週 2 回ほど登園できるようになり、対面とオンラインのハイブリッドで園生活を送っています。初めて登園した日は、マスクをして可愛いリュックを背負って、先生と友達に会えると大喜びでした。登園日以外は自宅でのオンライン学習です。朝、Zoom でのホームルームがあり、言葉や数の学びをします。また、お絵かきや体を動かして遊ぶ時間もあります。そして、Google Classroom にその日に取り組んだことや遊びなどの活動についてまとめたものをアップロードしています。

これは、ニューヨーク市だけでなく、世界の国々の子どもたちの姿であり、このような状況の中でも、子どもたちの生活と学び、遊びを保障するために、保育関係者が知恵を出し合って最善を尽くしているところです。

21 世紀を生きる私たちの生活は、人口知能、ビッグデータ、ロボットなどの情報技術革新によって、今後大きく変貌していくと思われます。そして、今世界では、Covid-19 の感染拡大により教育のデジタル化が急速に進み、幼児教育においても様々なオンラインツールを駆使した学びと活動が大きな広がりを見せるようになりました。

このような新しい学び方が模索される中で、いくつかの課題も浮き彫りになっています。一つ目は、コロナ禍の中で露呈した学びの格差の問題です。家庭の経済格差は教育格差として現れ、デジタル機器及び環境が整っていない家庭、様々な事情により親が子どもの自宅学習をサポートできない家庭などでは、子どもの生活と学びが保障されない状況に置かれています。二つ目は、社会性を育み、人格形成の基盤を確立していく幼児期において、子どもたちの多様な人間関係と双方向のコミュニケーションをどのように確保するかという問題です。否応なしに導入されたデジタルツールを活用した様々な取り組みは、今後も積極的に取り入れられることが予想されています。指導方法の大きな転換が始まっている中で、子どもの成長と発達につながる「学びの設計」をどのようにしていくべきか、幼児教育に携わる研究者と実践家が熟慮して検討することが求められています。

国際幼児教育学会の会員の皆様の活発な研究と実践の交流を通して、日本と世界の多様な子どもの育ちの姿、幼児教育の在り方を比較研究し、子どもたちの学びと幸せが保障される新たな幼児教育の方向性が示されることを心から期待しております。





コロナ禍における 第41回大会ウェブ開催のご報告

第41回大会実行委員会
委員長 三輪 千明

令和2年(2020年)9月19日(土)~9月30日(水)、国際幼児教育学会第41回大会をウェブ上で開催しました。当初は広島大学で通常の年次大会を開催すべく準備を進めておりました。ところが、今年3月我が国でも新型コロナウイルス感染症が拡大し、下旬には東京五輪・パラリンピックの1年延期が決定されました。翌月には緊急事態宣言が発令され、国外はおろか国内の移動にも制約がかかるなど、未曾有の事態へと発展しました。

これに伴い、大会実行委員会では4月のオンライン会議で大会開催可否を慎重に議論しました。結果、国内在住会員による研究発表のみに限定したウェブ開催とし、期間延長して実施する案で合意しました。当時、他の学会大会の殆どが中止や延期となる中、こうした決定を何とか回避し、限られた時間や経験値の中で、会員の研究発表と意見交換の場を最低限保障したいという想いを委員全員が抱いていたからです。しかし、学会としても初のウェブ開催であり、誰にどこまでを公開するのか、意見交換はどうするのかなど、検討すべき課題が数多くありました。

比較的早期にウェブ開催を決定・通知したこともあり、発表者数は延べ68名、研究発表は計43件の申込をいただきました(日本語部会30件、英語部会9件、中国語部会4件)。また、すべての研究発表に国内外の会員から

複数のコメントをいただき、コメント総数は143件にも上りました。発表あたりのコメント件数は3.3件で、お蔭様で、対面式の研究発表に比べても遜色ない内容となりました。また、ウェブ開催の利点として、他部会での発表内容やコメントまで知ることができる点、意見交換の記述を記録に残せる点などもあったようです。

他方、いくつかの課題も散見されました。コメントに対する発表者の回答総数は123件で、コメント数より少なく、僅かですが、全く回答のない発表もありました。また、複数の会員から有意義なコメントを数多くいただきましたが、その人数は29名で、特定の方に限定されていたことも事実です。

開催校として最善を尽くしたつもりですが、不慣れた作業であり、ご心配やご迷惑をお掛けしたことも多々あったかと存じます。ご寛恕を乞う次第です。中坪会長をはじめ役員の方々には異例の開催について特段のご理解とご支援を賜りました。また、研究発表をいただいた会員やコメントをいただいた会員、さらに発表要旨を熱心に閲覧いただいた会員もいらっしゃったこととお察しします。皆様のお蔭で、本大会を盛会のうちに終えることができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

ウェブ開催の陰から

第41回大会実行委員会事務局長 伊藤 真

第41回大会への多くのご参加、ありがとうございました。今回は先の見えない状況下で数々の決断をしなければなりませんでした。おかげをもちまして無事に開催することができました。心から感謝申し上げます。コロナ禍においては大会の在り方に多様性を認めながら、学会の目的を達成することが重要です。他の学会の様子と比較するなかで今大会に対する様々な思いやお考えはおありだと思いますが、「ねばならない」ではなく「こうあり

たい」という姿勢で大会業務にあたりました。「もっとこのように」という願いは次年度の大会に反映できればと思っております。ウェブでの発表申込みがうまくいかんかったり、発表申込費の振込みに手間取ったりなど、小さなトラブルは多々ありましたが、皆様のご協力によって作業を進めることができました。また、学会事務局の福井逸子先生とは密に連絡を取らせていただきました。改めてお礼申し上げます。

Web大会のホームページより～論文表示～



研究発表サイトの入口(会員限定)



研究発表(日本語部会)のサイト

機関誌編集委員会

委員長 上田敏文(名古屋市立大学)

無事に国際幼児教育研究第27巻を発行することができました。編集委員長として初めての巻であり、2020年1月末に査読が締め切られ、最終的に発行されるまでの半年間、編集委員のみなさまのご協力もあり無事に発行することができホッとしております。この場をかりて御礼申し上げます。

さて、28巻の投稿締切が2021年1月末となっております。詳細は学会ホームページから御確認頂き、ふるって投稿して下さい。

研究委員会

委員長 山岡テイ(情報教育研究所)

本年度の3月に開催予定でした第49回研究会は、従来、研究会は対面開催でしたが、居住地域を超えて多くの会員が参加できる開催・配信方法の可能性も今後は検討していきたいと思っております。会員の皆様からの研究会テーマのご提案や講師のご推薦など、ご意見ご要望をお待ちしています。

- ・研究会連絡先 e-mail : iaecestudy@gmail.com
- ・研究会 URL : http://www.iaece.org/s08_studyGroup.html

第49回研究会のご案内

『出産・妊娠による母親の脳機能の変化—育児工学からみた周生期の母子関係』

日時:2021年03月27日(土)10時から11時30分 方法:リモート(zoom)

講師:小谷博子先生(東京未来大学准教授)

研究会連絡先 e-mail : iaecestudy@gmail.com 山岡

研究会 URL : http://www.iaece.org/s08_studyGroup.html

情報委員会

委員長 荻原 明信

昨年度の情報委員会の主な仕事は、学会 Web サイトの管理です。見た目は発足時から変わっていませんが、細かいところで変化しています。例えば、年次大会、研究会、支部案内、部会案内の内容が、最近のものから順番に表示されるようになりました。この変化は、実は中坪会長からのユーザ目線の提案によるものです。皆様からの声は大切な糧です。細かいこと(「この文字は大きい方が」など)ということでも構いません。

ご意見をお寄せください(連絡先: ogiwara@sakushin-u.ac.jp)。



国際教育学会「学会賞」 受賞講演(要旨)

山岡 テイ
(立正大学 情報研修所)



多元文化週間でタイ語のレッスン
台湾の小学校



「この中で寝ちゃう子も多いですよ」
ニュージーランド・プレイセンター



大きなレゴ・ブロックで家具づくり
デンマーク・学童保育 SFO

1 ドイツでの出会いを通して

生活の中で多文化を実感したのは、ドイツ留学中の大学院時代でした。滞在中は、日本の文化庁、消費者関連や教育機関からの質問紙調査、関連組織の有識者インタビューなどの依頼で未踏分野の調査研究を通してドイツ理解が深まりました。



ドイツの森の幼稚園：みんな大好きな木

国教がキリスト教のドイツでは、自己申請しないと、給料から教会税が徴収されます。役所で保育教育施設の分類を調べると、公私立の分類ではなく、「カソリックかプロテスタント、公立、親主導型、その他」の区分でした。そのため、森の幼稚園、シュタイナー教育やモンテッソーリの園や学校も設立主体が様々なので、次々に可能な限り訪ねることになりました。この体験がその後も日本を含む10か国の園や学校、学童保育、発達支援施設、コミュニティ支援、保健センターや小児病院などの取材や調査を継続して訪問を続ける始まりとなりました。

2 中国・韓国・台湾の幼児教育の変遷

中国の北京・上海・天津を最初に訪れたのは1991年でした。この30年の間に、目覚ましい勢いで園の制度や幼児教育の現場が急変しました。託児所の0~1歳班が廃止されて、園では保護者ができて、とくに上海では、他市に先駆けて英語と中国語のイマージョン教育小学校が開始されたり、国のモデル園が大型の私立へ経営が移行したり、海外在留の中国人向けの幼児教育投資が始まるなど、その時代の変容を直に感じながら、多くの園や学校を定点観測して参与観察をし続けました。

お隣の韓国でも、特色ある大学付属幼稚園、民間の保育園・幼稚園や習い事の実情を長年にわたり参与観察を続けました。ある時、サムソン財団運営の保育園を訪問した翌日に、近接した地域に行くと、女性労働者の連合組織がボランティアで、アパートの一隅を保育施設として運営しており、地域子ども達を預かっている園で終日お手伝いができました。韓国でも、園を通して園児の親を対象に調査を何度か実施しました。その際に、歴代

の梨花女子大付属園々長にご挨拶に行くと、付属幼稚園でも同じ調査の実施を希望されたので、比較調査の集計には含めないことを条件に、単独集計結果をフィードバックしました。国内外問わず調査を園に依頼する際は、必ず自分で訪問経験がある園で、国際比較調査の場合は日本での協力園の保護者の属性に沿うように選定します。

台湾では毎回、台北・台中・台南・高雄を訪問して保育教育施設を訪ねます。2007年の11月~12月には、台湾の幼稚園評価の国際比較調査と幼稚園や託児所の参与観察のために台湾に滞りました。その折に、日本国際教育学会の年次大会が台北市の国立台北教育大学で開催されて、運良く学会の年次大会参加と開催校での大会実行委員長である翁麗芳先生のご案内で、「多元文化教育」実践校である2か所の小学校見学交流会に同行しました。当時の「新台湾の子」の現状、国や行政レベルでのモデル施策の課題の側面を垣間見ることができました。

3 オセアニアとアメリカでの多文化地域支援

オーストラリアの首都キャンベラに1996年4月から1年間滞在した時、多様な子育て支援活動を行っていた公的な「チャイルドケア・サポートチーム」と一緒に行動を共にしました。このチームは、多文化な家族の状況に応じた適切な支援を園に出向いて行っていました。また、機能障がい子ども達用の遊具や教材、アボリジニを含む多文化理解のための玩具、絵本、人形、ゲームや多言語カード、音楽の素材収集や製作と貸し出しも行っており、チームの内外での絵本や玩具の研究会にも参加する機会を得ました。また、従来の「社会科」がSOSE(Study of Society and Environment)へと切り替わる時期で、その啓蒙研修を目的に開催された学会に参加しました。社会科と複数の社会科教育関連の学会の合同主催。ここで市内の学校の先生方はもとより、隣の州の教育者養成学部の先生方とも出会えました。それ以降、遠距離バスを乗り継ぎ、何度も彼女達のご自宅に泊めていただき、教え子である保育士や教員が働き、点在するアボリジニの園の参与観察と地域支援調査を続けています。(注:SOSEはその後、HSIE:The Human Society and its Environment、さらにHASS:Humanities and Social Scienceへと州で独自に改定)

ニュージーランドは、この20年以上、ほぼ毎年訪れています。日本でもよく知られている幼児教育・母子保健サービスは、「プレイセンター」と「プランケット」です。さらに、1996年から「テファリキ」が全土で開始されて、その一環としての「Learning Stories: 以下LS」というA4サイズの園と家庭の連絡帳は、その後、他の国の現場でも活用されています。地域の園の先生同士でのLSの意見交流会に参加する機会がありました。参加者は、園長とPPTや動画

担当の新人の先生の2人組。LSの開始当初は、作業時間の捻出や個別対応など困難さなどが多かったのですが、数年後には、独自の創意工夫や企画提案が増えて、その後、この園を訪問してもLSを拝見するのが楽しみです。

アメリカのコタ州、ソルトレイク市のAlternative schoolでは、0~3歳未満児には、専門の教育者が家庭訪問教育サービスを行い、1歳以上は保育センターに通う子もいて、3~9歳児は学校に通学します。夜間は、学校で大人のための実践英語教室を開講しています。つまり、英語能力が十分ではない地域の移民や経済困窮度が高い住民家族が対象です。昼間は0歳から小学校3年までが教育を受けて、その後は近所の小学校へ編入します。取り出し授業では、小3生が1年生に個別で上手に教えて、地域住民や大学教員・学生は「Service Learning」の一環として参画するなど幅広い層が支えています。もう1校は、アーリントン市のIB教育の公立小学校です。ここには毎回、長期滞在し終日学校で過ごしました。プリスクールから5年生まで24クラスの他に特別学級もあり、全校生徒数は450人、教職員数は80人以上で、巡回の非常勤講師やボランティアも含めると100人近くです。非常勤には、学校心理士、言語療法士、作業療法士、理学療法士、スクール・ソーシャルワーカー、特殊教育のコーディネーターなどの専門家が多く、この学校が抱える生徒の多言語な背景への対応サポート層の厚さを示して。同校では、進学ガイド、心理相談、言語や機能障がいの対応には、それぞれの専門家が個別に担当し、内容によっては教員も含む編成チームで話し合い、ダイナミックに問題解決を進めていました。

4 フィンランド・デンマークの子育て福祉と教育

フィンランドの子育て支援で有名なのは、「ネウボラ neuvola」と「出産育児祝いパック」です。ネウボラは、妊娠がわかると、直ちに連絡する拠点センターです。妊娠・出産・就学前の子育て期を一貫した個別対応の保健師が助言や相談へのサポートをします。フィンランドの地方都市で地域密着型の病院長である友人も、「誰でも妊娠したらまず連絡するのが常識」で、彼女も同じくしたそうです。また、ケラ(Kela:国民年金局)という社会保障福祉機関では、「Kelaカード:国民健康保険証」を発行、医療費や出産手当、産休中の給与保障をはじめとする、家族全員への福祉支援を行い、出産育児用品がすべて入った「祝いパック」が届きます。

デンマークでは、小学校の学童保育(SFO)をご紹介します。都会のコペンハーゲンの学校では、限られたスペースを有効に活用して、多くのプログラムを展開していま

した。一方、ロスキレ市のクロスターマークス国民学校では、0学年のキンダーガーデンクラスと1~9学年までの生徒数550人。広い構内に、学童保育の大きな建物3棟もあり、1時から5時までの時間を、子ども達は好きなスポーツや遊び、制作など自由に過ごせる教育的なアミューズメント施設でもありました。

北欧の社会福祉の充実度も示す「世界の幸福な国ランキング」では、フィンランドとデンマークは、本年度も1位・2位を占めました。その背景にはデンマークは給料の半分は所得税、消費税25%、フィンランド24%の物価高が支えている実情もあります。

※日本を含む10か国の多文化子育てと地域支援の調査結果は、以下をご参照ください。
『世界の多文化子育てと教育』
<https://www.tabunkakosodate.net/category/report/>



国際幼児教育学会「学術賞」 受賞講演（要旨）

天野美和子
(東京大学大学院 教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)

「異世代との交流を通して幼児は何を学んでいるのか？」 幼児と中高生との「ふれ合い体験活動」に着目して」

私が幼児と中高生との「ふれ合い体験活動」に関心をもったきっかけは、2004年から2009年までの6年間に、白梅学園大学で開催された「家庭科の保育と保育者養成の保育をつなぐ」と題して開催された全6回のシンポジウムへの参加でした。このシンポジウムでは、中学校・高等学校で家庭科を担当している教員や、幼稚園・保育所の保育者、保育や家庭科教育の研究者が集い、各々の現場での取り組みや研究の調査結果などが報告されました。私は、このシンポジウムの中で特に2007年に開催された第4回の「中高生とのふれ合いは乳幼児に何をもたらすか」というテーマに関心がありました。なぜならば、私の専門が保育ということもあり、この回のテーマが唯一、幼稚園や保育所などの乳幼児側にとっての視点からの問いかけだったからです。

乳幼児と中高生とのふれあいについて研究等で取り上げられる場合、中高生にとってどのような経験や学びがあるのかというように、中高生側にとっての視点から検討されることが多かったため、このシンポジウム企画者であった金田利子氏からの「乳幼児自身にとってはどんな意味があるのかについては必ずしも十分研究されてきたとは言えません。」という問いかけが強く印象に残ったことを覚えています。このことがきっかけとなって、私はこの研究に取り組むことになり、白梅学園大学大学院で「中学生との「ふれ合い体験活動」における幼児の経験」というテーマでの博士論文提出に繋がりました。幼児と中高生との「ふれ合い体験活動」には、様々な形があります。たとえば、前述したような中学校・

高等学校の家庭科の授業として行われるものや、総合的学習の時間における職場体験として行われるもの、その他、ボランティア活動、地域子ども家庭支援センターでの取り組み等があります。各々の「ふれ合い体験活動」には、それぞれやり方やねらいにも違いがあるので、それらを一括りにしてどのような経験や学びがあるのかを一言で述べるには限界があります。

この度、学術賞を頂いた論文は、「保育所における職場体験の中学生に対する幼児の態度・行動の検討—5歳児クラスの幼児と中学生とのエピソードの分析—」というテーマでした。つまり、この研究では、職場体験で保育所を訪れた中学生と、保育所の5歳児クラスの幼児との「ふれ合い体験活動」に着目しました。研究協力園であるF保育所の5歳児クラスにおいて、2つの異なる時期に行われた2名の中学生(2年生)による職場体験の場面で、5歳児クラスの幼児と中学生(2年生)とが交流する場面を観察し、そこで得られたエピソードを分析しました。それにより、中学生側の経験や学びの場として注目されることの多い保育所での職場体験において、2名それぞれの中学生に対して幼児らは、どのような態度や行動を示すのかについて明らかにすることを目的として検討を進めました。その結果、以下のことが明らかとなりました。

第一に、同一クラスの幼児でも、時期の異なる第1期と第2期では、幼児らと各中学生とのエピソードの生起頻度や、その分布の仕方には差異があること



が示されました。その差異には、各中学生が体験に訪れる時期によって園やクラス、個々の幼児の状況が違うことも影響し、それらの状況に応じて担当保育者が中学生に体験させる内容も違ってくることによっても差異が生じることが分かりました。

第二に、職場体験期間中の幼児と中学生との交流エピソードの生起頻度については、期間前半には4割に満たない幼児にしか観察されなかった中学生との交流が、最終日には6割を超える幼児が中学生と交流していることが示されました。幼児は、当初は初対面で知らない中学生であっても、連日一緒にさまざまな共通体験をして過ごすことで、馴染みになっていき、幼児側からの関わりも増加したと考えられます。これは、いわゆる人間関係を築いていくときの典型的な形が、職場体験という一時的で短期間の中学生との交流の場面においても見ることができると言えます。

第三に、第1期に訪れた中学生の場合と、第2期に訪れた中学生の場合とでは、個々の中学生の性別や外見からの雰囲気や性格などの特性により、同一の幼児でも、それぞれの中学生に対して目立って頻繁に関わる姿が見られる場合もあれば、拒む姿が見られる場合もありました。逆に、いずれの中学生に対しても同様に、ほぼ変わりなく初日から人懐っこく関わろうとする姿も見られました。このことから、幼児らの中学生に対する行動や態度は、どの中学生に対しても一律なのではなく、個々の幼児と個々の中学生の組み合わせによっても異なるということが



エピソードを通して具体的に示すことができました。

このように、幼児と中学生とがふれ合う場面において、それぞれの幼児が経験していることは決して一律ではなく、幼児は、ふれ合う個々の中学生が醸し出す雰囲気や性格を感じ取り、人によって関わり方を変えていることが分かります。幼児は、普段は園で関わることのない中学生と、一期一会の短い期間の関わりではありますが、感性を働かせて非常に複雑で多様な経験をしています。したがって、保育者は、個々の幼児と個々の中学生らが関わる一つ一つの場面で、彼らが互いにどのような経験し、何を学んでいるのかを丁寧に見取る必要があります。

平成29年告示の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の人間関係の領域の内容においても「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもち」と、幼児が異世代の人々と関わることの大切さが示されています。家族の縮小化や地域社会との関わりが希薄になった昨今では、年齢の近い乳幼児同士の間での関わりだけではなく、あえて様々な世代や多様な人々とふれ合う体験をすることが必要だと思えます。そのような点からも、乳幼児にとっての様々な世代の人々との「ふれ合い体験活動」は、園の外の社会では様々な世代の人々が共に暮らしているということを実感する機会にもなり、それらの人々とどのようにコミュニケーションをとり、関わっていけばよいのかを体験的に学ぶことにも繋がると考えます。

支部 活動報告

とちぎ支部

〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町 891-3
宇都宮大学まなびの森保育園内

本年度の活動打合せ会において総会、研究会等の内容を検討し、次のとおり決定しました。

活動内容	支部総会 2020年10月15日(木) 研究会・意見交換会 第1回 2020年10月15日(木) 第2回 2020年12月15日(火) 第3回 2021年2月16日(火)
みね子ども食堂	活動会場：宇都宮市峰3-31-48 ドームシティヒロ1階
研究会内容	「NDL デジタルコレクションにみる子どものあそび」久野高志氏, 「中学生の姿からみる幼児期の課題」荻原志美氏, 「近年における中国の都市部の0~3歳児保育・教育の動向と課題」金崎友香氏 を予定しています。
その他	会員は約30名です。入会は氏名、住所、連絡先(電話,Email-address), 所属をメール (manabinomori@bd.wakwak.com), Fax(028-635-4141)または郵送でお知らせください。 なお、県外の方の参加も大歓迎です。是非ご連絡ください。

九州・沖縄・山口支部

支部長 椎山克己

〒820-8513 福岡県飯塚市菰田東1丁目5-30
近畿大学九州短期大学内
事務局 久世安俊 <kuse@kjc.kindai.ac.jp>

九州・沖縄・山口支部はこの地域に在住・勤務する会員で組織されています。年に1回開催する支部総会にて、支部研究会の内容を企画しています。今までの支部研究会では、支部会員の研究発表、現場の保育者を対象としたワークショップや講演会等を開催してきました。ここ数年は支部会員の研究発表を中心に実施しています。2020年度は第20回支部研究会を9月27日(日)に久留米信愛短期大学で実施しました。今回は新しく入会された上田浩平氏(近畿大学九州短期大学)、桑原広治氏(久留米信愛短期大学)、増田吹子氏(久留米信愛短期大学)による研究紹介を行いました。

部会の 紹介

絵本部会

代表：宮地 敏子

【ローバリズムを育む絵本】

コロナ終息が見通せない中、2021年度も学会はweb開催が決まりました。絵本部会は上記の題でラウンドテーブルの予定。部会は以前から多文化共生に強い関心のある方たちが創設に加わり、輪が広がり、HP上の「絵本部会通信」記載のワークショップやシンポジウムに結実してきました。絵本の未来を共に考え協働する絵本仲間大歓迎！

〈絵本部会事務局〉

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
玉川大学教育学部教育学科 松本由美気付
ymat@lb.tamagawa.ac.jp

音楽部会 代表：岡村 弘

【音楽部会について】

音楽部会は、音楽を専門とされる学会員だけでなく、現場に携わられている保育者の会員の皆様とも一緒に、乳幼児期の音楽教育について研究を深めて行く場であればと考えて毎年年次大会の会場において自主的にシンポジウムまたはワークショップを開催してまいりました。ただ本年度は、大会がWeb開催となったため、残念ながら音楽部会は中止せざるを得ませんでした。なお、中坪会長、福井事務局長をはじめ若手の研究者が役員を担うようになってきましたので、音楽部会でも若返りを図り、本学会理事であり九州・沖縄・山口支部長として活躍されている椎山克己先生に音楽部会長をお願いしましたところ快くお引き受けいただきましたので、次回大会からは椎山先生を中心に音楽部会をさらに発展させていっていただきたいと切に願っています。

ベトナム都市部における 幼児教育の展開

門松 愛
(名古屋女子大学)



ベトナムの幼児教育・保育は、近年、大きく発展してきました。例えば、3-5歳の就学者数は、1999年の約212万人から2016年には約440万人になり、就学規模の拡大が見られます。それだけではなく、幼児教育のカリキュラムにおいても児童中心主義など国際的な潮流をふまえた改革が進んでいます。筆者は、2018年3月にベトナムのハノイで公立園と私立園を訪問しました。本稿では、この現地調査に基づいてベトナムの幼児教育の展開状況を紹介していきたいと思います。

公立園では、時代の変化に柔軟に対応する幼児教育が見られました。例えば、ICTを活用した幼児教育です。写真1で示したように、幼稚園内にパソコンコーナーがあり、子ども達は多くの場合、1人1台パソコンを使用しています。そこでおこなわれていたのは「知育ゲーム」でした。例えば、柵目に沿って蟻を進めていくゲームや、イラストの植木鉢の中に花を植えるゲームなどです。複数のゲームがあり、子ども達はマウスやキーボードを巧みに操作してゲームをクリアしていました。もう一つ、保育教材の充実度からは児童中心主義への対応を垣間見ることができました。園庭には、写真2で示したように教師が手作りで作成した身近な楽器コーナー

など複数のコーナーがあったり、生物の教材として教師が作成した昆虫などの標本があったりしました。教材のなかは、教師がプライベートな旅行の際に収集して作成したものもあり、子どもが自ら発見して楽しむ活動がおこなえるように、教師が努力し、工夫している様子が見られました。

一方で、私立園も社会の変化に応じて発展し続けています。筆者が訪問したのは、モンテッソーリ教育を提供する私立園のみでしたが、ベトナムではモンテッソーリ園など海外由来の保育を展開する園が多く見られます。私立園の教師によれば、モンテッソーリ教育は、少子化で親が子どもを甘やかすようになった現代ベトナム社会で、「しつけること」を重視する風潮や、個々を重視し独立心や自信を育てる教育を求める風潮に合致しているということでした。このようにベトナムでは、時代のニーズに合わせて海外の保育を柔軟に取り入れながら保育が展開されています。

筆者が訪問したのは都市部のトップクラスの園に限られますが、時代のニーズに柔軟に対応する幼児教育の力をベトナムにて感じる事ができました。

男性保育者研究に対する ノルウェーの関連政策文書の示唆

山中拓真
(筑波大学大学院生)

会員の皆さまは、保育の構造という語から、何を思い浮かべるでしょうか。保育者一人当たりが受け持つ子どもの人数といった、国際的に有名な指標をイメージする方は多いと思われますが、海外の政策文書を読むとき、意外なアイデアに遭遇することがあります。『保育施設における質：構造の質に関する調査報告2012年秋』は、ノルウェーの保育施設の質の構造的側面に着目したのですが、その要約部分には、男性の勤務する保育施設の割合をことさらに詳しく述べているくだりがあります。

保育の構造的指標に関する通念からすると、保育職員の性別に注目する見方は奇異かつ新鮮さを禁じえません。しかし、このような常識の動揺は、研究知見の空白領域を照射することにつながります。それはすなわち、男性保育者がいかなる点で保育の質ないし子どもの発達に寄与するのか、というものです。

男性保育者がもたらす効果を検証することは、男性保育者研究が取り組むべき課題の一つといえるかもしれません。

文献：Gulbrandsen, L. & Eliassen, E. (2013) Kvalitet i barnehager: Rapport fra en undersøkelse av strukturell kvalitet høsten 2012. NOVA. Oslo.

2019 年度決算報告

単位：円

特別会計	学会賞	収入の部			支出の部					
		前年度繰越金	予算額	決算額	差額	前年度繰越金	学会費賞	予算額	決算額	差額
		1,428,500	1,428,500	0	0	0	50,000	50,000	0	山岡テイ氏
		0	0	0	0	0	1,378,500	1,378,500	0	
		1,428,500	1,428,500	0	0	0	1,428,500	1,428,500	0	
特別会計	学術賞	収入の部			支出の部					
		前年度繰越金	予算額	決算額	差額	前年度繰越金	学会費副賞	予算額	決算額	差額
		1,450,000	1,450,000	0	0	0	50,000	50,000	0	天野美和子氏
		0	0	0	0	0	1,400,000	1,400,000	0	
		1,450,000	1,450,000	0	0	0	1,450,000	1,450,000	0	

一般会計	収入の部	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B) - (A)	備考
		2019年度前年度繰越金	183,009	183,009	0
	会費収入		1,848,000		
	(1) 正会員	1,960,000	1,848,000	-112,000	正会員内訳 7,000円×199人 14,000円×19人 21,000円×9人
	(2) 機関会員				
	(3) 賛助会員				
	広告収入	10,000	0	-10,000	
	売上収入	2,000	0	-2,000	
	利子	100	12	-88	
	雑収入	50,000	18,384	-31,616	機関誌
	合計	2,205,109	2,049,405	-155,704	
一般会計	支出の部	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B) - (A)	備考
		事業費	1,170,000	1,131,485	-38,515
	①大会費	600,000	681,310	81,310	40回大会
	②機関誌	400,000	305,400	-94,600	27号
	③会報	100,000	104,775	4,775	69号、70号
	④研究会	30,000	0	-30,000	
	⑤支部活動	40,000	40,000	0	
	会議費	20,000	0	-20,000	
	印刷・製本代	150,000	151,708	1,708	
	人件費	20,000	0	-20,000	
	次年度繰越金	525,109	385,748	-139,361	
	交通通信費	300,000	169,954	-130,046	
	消耗品費	10,000	0	-10,000	
	諸雑費	10,000	210,510	200,510	事務所移転・役員変更 登記手続、法人税等
	合計	2,205,109	2,049,405	-155,704	

2019 年度事業報告 〈第40回 総会の開催〉

第40回 大会の開催

日時：2019年8月9日(金)、10日(土)
 場所：ハワイ大学コミュニティカレッジヒロ校
 大会テーマ：Culture in Early Childhood: Putting it into Practice
 大会委員長：金崎 芙美子 大会実行委員長：Brenda Watanabe

学会賞・学術賞の授与

学会賞：山岡テイ氏(立正大学, 情報教育研究所)
 学術賞：天野美和子(東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)

評議員会・理事会の開催

評議員会：2019年8月9日(金)
 理事会：2019年11月~2020年6月まで、14回のメール審議を実施

機関誌の発行 「国際幼児教育研究」第27号 2020年10月30日

会報の発行 「国際幼児教育学会会報」第69号 2019年11月1日、第70号 2020年4月30日

支部の活動

九州・沖縄・山口支部：7月7日(日)支部総会・支部研究会を実施
 テーマ
 「ふしづくりの教育における初期段階に関する研究-福岡県春日市泉ヶ丘幼稚園における実践を中心として-」
 実践報告：福島さやか氏 於：久留米信愛短期大学
 とちぎ支部：「支部活動打合せ会」2020年1月17日(金) 於：みね子ども食堂

2020 年度予算 (2020 年 8 月 ~ 2021 年 7 月)

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	385,748	事業費①~⑤	970,000
		①大会費	500,000
		②機関誌	300,000
会費収入	1,960,000	③会報	100,000
(1) 正会員	1,960,000	④研究会	30,000
(2) 機関会員		⑤支部活動	40,000
(3) 賛助会員		会議費	20,000
		印刷・製本代	300,000
		人件費	450,000
広告収入		交通通信費	340,000
売上収入		消耗品費	30,000
利子		諸雑費	253,748
雑収入(寄付金等)	18,000	次年度繰越金	0
合計	2,363,748	合計	2,363,748

〈学会賞〉			
収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	1,378,500	2020年度副賞	50,000
その他の収入	0	次年度繰越金	1,328,500
合計	1,378,500	合計	1,378,500

〈学術賞〉			
収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	1,400,000	2020年度副賞	50,000
その他の収入	0	次年度繰越金	1,350,000
合計	1,400,000	合計	1,400,000